



TITLE:

教室通信・編集後記ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

教室通信・編集後記ほか. Cue 2002, 10: 55-56

ISSUE DATE:

2002-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/57843>

RIGHT:

cue

京都大学電気関係教室技術情報誌

NO.10 DECEMBER 2002

[第10号]

.....
巻頭言

名誉教授 川端 昭

.....
大学の研究・動向

電気システム論講座・電気回路網学分野

宇宙電波科学研究部門・宇宙電波工学分野

.....
産業界の技術動向

オムロン(株) 市原達朗

研究室紹介

博士論文概要

学生の声

教室通信

cue：きっかけ、合図、手掛かり、という意味
の他、研究の「究」（きわめる）を意味す
る。さらに KUEE（Kyoto University
Electrical Engineering）に通じる。

cue は京都大学電気教室百周年記念事業
の一環として発行されています。

教室通信

21世紀COEプログラム

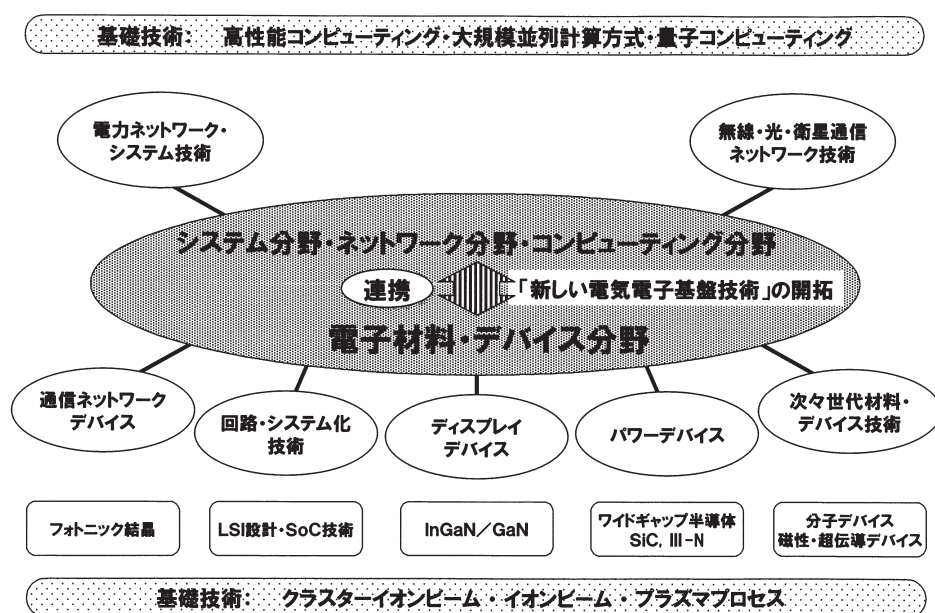
電気電子基盤技術の研究教育拠点

本学電気系3専攻（工学研究科電子物性工学専攻、同電気工学専攻、情報学研究科通信情報システム専攻）は、本年度の21世紀COEプログラムに表記の拠点形成の提案を行い、幸にも採択されました。21世紀COEプログラム全般については新聞等で大きく報道されていますので、ここでは提案した拠点形成計画の内容・特色などを簡単に御報告します。

拠点形成計画を一口で言いますと、「3専攻のハード分野（電子材料・デバイス）およびソフト分野（システム、ネットワーク、コンピューティング）のグループが結集して、21世紀社会の通信・電力ネットワークを支える電気電子基盤技術の研究教育拠点を形成する。」となります。具体的には、研究面の計画は図に示したようなもの、教育面については、1）博士後期課程学生の中の優秀な者に対する財政的支援、2）異分野からの学生・若手研究者が集り、自由闊達な議論とプロトタイピングを通して、アイデアの交換・検証が行えるコラボレーションスペースの設置、の2施策の実施ということになります。このプログラムは予算面でオープンなところがあり、外部資金の積極的獲得が奨励されています。電気系では博士課程学生の支援に予算を重点的に使用しますので、研究については科研費などの外部資金獲得の努力で不足分を補わなければなりません。また、審査委員会等から、分野間および産業界との連携が強く求められています。電気系では、インターン制度などを通して教育における分野間の連携には十分留意しているわけですが、今後は、研究面における連携も目に見える形にしていきたいと考えます。産業界との連携につきましては、共同研究・受託研究・奨学寄付金といった形で、研究成果の企業化や産業界からの資金導入をより積極的に進めていかなければなりません。これに加えて社会人博士の受入、すなわち教育面での貢献も重要と考えられます。これにつきましては、博士号取得のみならず、特定の先端的分野での教育に重点をおいた受け入れ方式も検討しております。

以上のとおり、本拠点計画の遂行におきましても、卒業生諸賢の御協力・御支援が非常に重要となりますのでよろしく御願います。

拠点リーダー 荒木 光彦（電気工学専攻）



編集後記

電気系教室創設100周年を契機として、教室から産業界への情報発信の一環として始めました「cue」もお陰さまで第10号の発刊を迎えました。皆様のご支援に厚く感謝申し上げます。ところで、日本全体が大きな構造転換を迫られている今、大学も例外ではありません。現在、大学は平成16年に予定されている独立法人化への対応（中期目標・中期計画の策定）、産学連携の強化、教育への取り組み強化（ファカルティ・ディベロップメント）、21世紀COEプログラムによる拠点形成さらには桂キャンパス移転準備と、極めて多忙な時期を迎えています。このような時期こそ大学も社会との連携を一層密にして、“大学らしさ”を失うことなく努力していきたいと考えています。今後とも電気関係教室に対するより一層のご支援をお願い申し上げます。（S.Y記）

発 行 日：平成14年12月

編 集：電気電子広報委員会
石川 順三、吉田 進、引原 隆士、
八坂 保能（現 舞鶴高専）、
川合 誠、芝内 孝禎、松尾 哲司
京都大学工学部電気系教室内
E-mail: cue@kuee.kyoto-u.ac.jp

発 行：電気電子広報委員会，
洛友会京都大学電気百周年
記念事業実行委員会

印刷・製本：株式会社 田中プリント